

武蔵野の見えなしい自然

上映 | 佐藤浩一「武蔵野の流水」
講演 | 諸永裕司「PFAS 汚染は終わったのか？」

2026 03.29 (日) 15:30 - 17:30
(OPEN 15:00-)

会場・武蔵野プレイス4階フォーラム
参加費・無料
定員・50名(申込順)
対象・どなたでも
申込開始・令和8年3月1日(日)
申込締切・定員に達するまで

主催：公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団
企画・運営：KANTO (佐藤浩一 + ARCHIVE)



武蔵野の見えなしい自然

上映 | 佐藤浩一「武蔵野の流水」
講演 | 諸永裕司「PFAS 汚染は終わったのか？」

2026 03.29 (日)
15:30 - 17:30
(OPEN 15:00-)

佐藤浩一(アーティスト)
1990年、東京都生まれ。自然環境や生物と、産業・消費社会との関係性についてリサーチやフィールドワークを行い、映像や音、香りなどを複合的に組み合わせた作品を制作する。

諸永裕司(ジャーナリスト)
1993年に朝日新聞社入社。週刊朝日、AERA、社会部、特別報道部などに所属。2023年春に退社し、独立。新刊『灰色の鎖 PFAS 汚染列島』(文藝春秋)。著書に『消された水汚染』(平凡社)、『葬られた夏 追跡・下山事件』(朝日文庫)、『沖縄密約 ふたつの嘘』(集英社文庫)、共編著に『筑紫哲也』(週刊朝日MOOK)がある。沢木耕太郎氏が02年日韓W杯を描いた『杯(カップ)』(朝日新聞社)で編集を担当。アフガニスタン戦争、イラク戦争、安楽死など海外取材も。

会場：武蔵野プレイス4階フォーラム
参加費：無料
定員：50名(申込順)
対象：どなたでも
申込開始：令和8年3月1日(日)
申込締切：定員に達するまで



企画講座
申込方法：
武蔵野プレイス市民活動カウンターへ直接、電話 0422-30-1903、
メール gr-shikatu@musashino.or.jp へ講座名、氏名(ふりがな)、
連絡先を添えてお申込みください。

お申込み時にいただいた個人情報は「武蔵野市文化・スポーツ・生涯学習ネット」を運営する武蔵野文化生涯学習事業団が管理運営する施設の予約及び教室の実施・運営に必要な範囲内で使用いたします。それ以外の目的で使用することはありません。

熱や水に強く、撥水加工のフライパンから消火剤まで数多くの製品に使われてきた化学物質「PFAS」。自然界で分解されにくい「永遠の化学物質」が、いま世界各地で環境問題と健康被害を引き起こしています。
ここ、多摩・武蔵野エリアでも、「PFAS」による水質・土壌・血液の汚染が表面化しています。疫学調査の結果、武蔵野市の水道水や住民の血液からも「PFAS」の検出が認められるようになりました。
無味無臭で目にも見えない化学物質が、どうして武蔵野の水や土、そして私たちの体にまで拡散しているのか。本講座は、汚染そのものだけでなく、その原因や帰結、経路や責任すら見えにくいこの問題を手がかりに、私たちを取りまく「武蔵野の見えなしい自然」を考えます。
講座前半では、アーティスト・佐藤浩一による映像作品『武蔵野の流水』(約15分)を上映します。自身が長年武蔵野の水を利用してきた事実から「PFAS」問題に関心を抱きはじめた佐藤は、武蔵野各地の湧水から私たちの血液にいたる「見えなしい水の流れ」を描きます。
講座後半では米軍基地への取材をきっかけに「PFAS」問題を追跡しはじめ、数々のスクープを発信してきたジャーナリスト諸永裕司氏によるレクチャーを実施します。諸永氏は、今年3月に新刊『灰色の鎖 PFAS 汚染列島』(文藝春秋)を上梓しました。

